

会報

No. 49

平成11('99)年8月31日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市下京区西七条八幡町31
京都府立図書館仮施設内
TEL (075)321-0200

所感

京都市中央図書館長 阿久澤宏一郎



京図連協の皆様には日頃のご支援、ご協力にこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

さて、二年越しの懸案事項であった公共図書館間資料相互貸借指針が過日の全国公共図書館協議会総会で決定され、公共図書館サービスの新しい時代を迎えることとなりました。しかし、この指針が確定されるまでの間、かなり激しいやり取りが内部で行われそれが未消化のまま決定されてしまった感も否めないところですので、この問題についての所感を述べてみたいと思います。

問題点となりましたのは、相互貸借の郵送費用で、これを借受館の全額負担とするか、あるいは両館で折半の負担とするかという点であり、結果的にはご承知のように原則借受館負担ということに落ち着いたこと

ろです。借受館の全額負担を主張したのは、府県・指定都市の大規模図書館で、折半を主張したのは他の小規模図書館が多かったようです。小規模図書館は、「相互貸借を簡単にし、より活発化することにより図書館サービスを充実させることを目指すべきだ。あくまで相互貸借なのだから困ったときはお互い様。当然費用は折半であるべきである。」という趣旨の主張であり、一方の大規模図書館は、「相互貸借とは名ばかりで、実際には一方的な貸し出しのみだ。しかもこの中には現在簡単に入手できる流行本まで含まれている。他の自治体の住民のために労力と費用を無制限に使うことはできない。それでは本当に必要な相互貸借まで制限せねばならないことになりかねない。だから相互貸借のハードルは多少高めにするべきだ。」という主張でした。私には、それぞれの主張はかなり一方的なものと感じられました。まず小規模図書館の主張は、図書館振興は本来、その館の属する府県の府県立図書館との連携の下に図るべきであり、他の自治体図書館にそれを期待するべきではない

と思います。また費用については、考え方を同じくする図書館との間で、そうした取扱をすればすむことで、他の自治体図書館にそうした考え方を押しつけることはおかしいと思います。一方、大規模図書館の主張は、府県立図書館のバックアップがきちりできていれば他の自治体図書館に依頼するケースは僅少なものになるということを十分認識すべきであり、その努力をしないで相互貸借のハードルだけ高くしようというのはいかがかと思えます。ただ、検索体制が不十分な現状のものとは、全国総合目録に資料提供をしている館や、インターネットで蔵書検索をさせている館に貸出依頼が集中することは必ずであり、全図書館はこうした点に配慮しながら依頼をすべきではないかと思えます。

相互貸借は、お互いを理解し、信じていることができなければ成功しません。そのためにはまずお互いがそれぞれの状況を知ることが第一です。この京図連協の意義もそこにあると思います。府立図書館の改築完成も間近となりバックアップ体制も飛躍的に充実されることが期待されます。今日、京図連協の連携の下に京都府内の公共図書館が住民にとってよりよい図書館に発展するよう皆さんと共に努力してまいりたいと思えます。

平成十一年度定期総会開かれる

平成十一年度定期総会が五月二十日(木)に京都市醍醐交流会館で開催されました。

総会は、村上会長のあいさつに始まり、つづいて議長の選出に移りました。

総会議事

総会は、綾部市図書館長河崎雪雄氏を議長に選出。加盟館三十館の出席、十六館の委任状提出により総会が成立していることを確認して、議事が進められました。

最初に、本年度の府・市町村の人事異動等により、一部役員の交替、変更が報告されました。嵯峨根行雄副会長(舞鶴市立東図書館)から倉橋万青氏(舞鶴市立西図書館)へ、矢谷喜博理事(京北町文化センター図書室)から田中眞理氏(同)へと、それぞれバトンタッチが行われました。

また、顧問として小山雄一京都府立図書館長、保理江久京都府立総合資料館長、阿久澤宏一郎京都市中央図書館長の三名の方々への委嘱が承認されました。

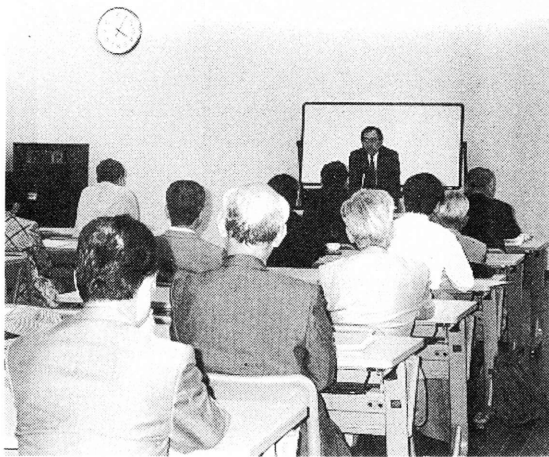
つづいて、平成十年度会務報告・決算報告・平成十一年度事業計画・

予算の審議にうつり、いずれも報告・提案どおり承認されました。

会務報告

会務報告では、はじめに府内市町村での図書館をめぐる状況として、十年度にあらたに、京都市久世ふれあいセンター図書館(六月)、園部町立園部中央図書館(十一月)の二館が開館したこと。十一年度には京都市左京図書館、久御山町図書館が新築開館される予定であることなどの動きが報告されました。

また、特徴的な動きとして、府民一人当たりの蔵書冊数や貸出冊数が



引き続き前進してきている状況が報告され、それに伴い、市町村図書館等の館間相互貸出が活発に推進され、件数も大幅に増えている状況も報告されました。

さらに、コンピュータ導入の動きも府下各地で活発化してきている様子が報告されました。

昨年度に木津町、長岡京市、精華町等での更新や導入が行われたのははじめ、相楽郡南部四町では郵政省の「広域的地域情報通信ネットワーク整備促進モデル構想」を活用したネットワークシステムの開発や、京都市の「京(みやこ)ライブラリネット」が全地域館オンライン化をめざして着々と取り組みが進められている状況も報告されました。

事業報告では、京都府立図書館が新館に向けて進めている総合目録ネットワークに対して、特別委員会を設置し、府下三会場で研修会が開催されたことや、市町村の電算システムの実態調査が取り組まれていることが報告されました。また、「研修・研究事業」「相互協力事業」「広報事業」の各委員会の活動のようすについても、それぞれ報告されました。

事業計画

平成十一年度の事業計画では、総会・理事会の開催をはじめ、研修・

研究、相互協力、広報等の各事業の他、「ネットワーク特別委員会」の継続設置があらたにかかげられ、それぞれの委員会で具体化が図られることとなりました。また、図書館振興のため関係機関への要望活動や、第八回図書館大会の成功に向けて積極的に貢献していくことなどについても確認されました。

十一年度被表彰者

- 植本光恵子(京都市中央図書館)
- 駒井 孝次(京都市西京図書館)
- 藤原 孝子(宇治市中央図書館)
- 釘本 容子(京田辺市中央図書館)
- 前田 昭夫(亀岡市立図書館)
- 嵯峨根行雄(元舞鶴市立東図書館)
- 河田美奈子(舞鶴市立西図書館)
- 大澤 周子(京都府立総合資料館)
- 中川 泰弘(京都府立図書館)
- 川野 並子(京都府立図書館)
- 野村 栄子(京都府立図書館)

事例発表

定期総会の後、事例発表を二名の方々にしていただき、それぞれ、コンピュータを積極的に活用した学校図書館活動への支援や、広域的ネットワークによる個人貸出事業の実施等についての現状や、今後の課題について熱心に語っていただきました。発表者は次の方々です。

「相楽南部四町広域個人貸出等の取り組み」

山城町立図書館長

岸 正治氏

「園部町立図書館の取り組み」

園部町立園部中央図書館長

松村賢治氏

新館長紹介

京都市伏見中央図書館	大橋 紀雄
同 北図書館	山元 公郷
同 東山図書館	植松 迪夫
同 山科図書館	井本 武美
同 下京図書館	井上 嘉久
同 右京図書館	古川昇太郎
同 洛西図書館	北浜 義規
同 向島図書館	池垣伊三郎
宇治市中央図書館	山本 徳善
木津町中央図書館	矢田本 薫
舞鶴市立東図書館	溝畑 俊樹

第一回理事会より

今年度最初の理事会が四月二十一日（水）に府立図書館で開催されました。はじめに、府立図書館の一部機構改革にもなり事務局体制の変更について報告があり承認され、引き続き協議事項として、平成十年度会務報告・収支決算報告、十一年度事業計画・予算案、顧問の委嘱等

が審議され、定期総会に諮られることとなりました。また十一年度職員表彰についても決定されました。

さらに、前回理事会以降に加盟申し込みのあった、京都市久世ふれあいセンター図書館、久美浜町教育委員会図書室・三和町図書室の三館が承認され、加盟館は五十八館となりました。理事会として、引き続き、未加盟町村への加盟を働きかけていくこととなりました。

京都図書館大会実行委員会

第八回京都図書館大会の第一回実行委員会が去る七月二日（金）に同志社大学徳照館で開催されました。

実行委員会は日図協関係者、大学図書館関係者、学校図書館関係者、京図連協等から構成され、最初に実行委員長に村上康夫氏（京図連協会長）を選出し、引き続き、府内図書館を巡る動向が話し合わせ、それらを踏まえて、今回の大会の内容や日時等について協議が行われ、以下のとおり大要が決定しました。

日 時 平成十一年十二月九日（木）
会 場 同志社大学（今出川校舎）
テ ー マ 館種をこえた図書館
連携をめざして
（Part 3）

※詳細は次回実行委員会です。

新加盟館紹介

三和町図書室

今年度より京図連協に加盟させていただきました。三和町図書室です。

昨年七月、三和町役場近くに完成した三和会館の一階にオープンして一年になります。一四三平方メートルの小さな図書室です。

府立図書館からお借りしている五千冊と蔵書二千五百冊の七千五百冊でスタートしましたが、新刊の購入と美術関係図書等町内の方からの寄贈の申し出も次々とあり、一年で一



万冊を超えました。

小、中学校に近いこともあり、日暮の遅い春から夏は、閉室時間の六時まで子供達で賑わっています。土曜、日曜、祝日も六時まで開室しているのが家族づれや町外へ勤務されている方からも「利用しやすくなった」と声をかけていただいています。

三和町の生涯教育の拠点として、幼児から高齢者までみんながのんびりくつろげる図書室になるよう、努力していきたいと思っております。今後とも宜しくお願いたします。

《平成11年度研究集会等》

- 第85回全国図書館大会
 - 於：大津市
 - 10月27日（水）～29日（金）
- 全国公共図書館研究集会
 - ・整理部門 於：東大阪市
 - 11月18日（木）～19日（金）
 - ・奉仕部門 於：今治市
 - 10月14日（木）～15日（金）
- 全国移動図書館・協力事業研究集会
 - 於：横浜市
 - 10月7日（木）～8日（金）
- 近畿公共図書館協議会研究集会
 - ・奉仕部門 於：神戸市
 - 1月21日（金）
 - ・参考部門 於：京都市
 - 1月20日（木）
 - ・児童奉仕部門 於：大津市
 - 期日未定
- 近畿地区公共図書館研修
 - 於：大阪市
 - 2月14日（月）～18日（金）
- 第八回京都図書館大会
 - 於：同志社大
 - 12月9日（木）

◎ ネットワーク特別委員会

総合目録ネットワーク委員会では、各市町村電算システム実態調査集計内容を、去る五月二十日の総会終了後、全理事に説明しました。

電算化については、府下四十四市町村のうち図書館を設置している二十一市町で行われており、二市町では未設置です。

公民館図書室等読書施設を有する二十一の町村では、電算化は三町で、あまり進んでいない状態でした。

六月十六日には、実態調査の内容をうけて府社会教育課、府立図書館、ネットワーク委員会の三者で、内容分析と今後の進め方について協議しました。

その内容は、市町村で必要となる参加のための作業。

- (1) データ抽出のための、自館システムの改造
 - (2) データ送信機器購入
 - (3) ネットワーク端末購入
- ののうち(1)について各委員が手分けして、更に内容を知る、でした。
- 今後の予定としては府教委による、
- (1) 市町村参加ガイドラインの確定
〈七月〉
 - (2) 市町村説明会
予定されており、府教委の積極的な対応を期待しています。

◎ 研修研究委員会

第一回の研修研究委員会を五月二十七日に向日市立図書館で開きました。

今年度の研修計画は、昨年度と同様に宿泊研修会を一回、実務研修会を二回開催することにしました。

委員は二年目となり、昨年の経験を生かし、早めに取り組みを行い、既に二つの研修会を計画しました。三つ目は次回の会報で報告します。

委員一同より充実した研修会にするため、一生懸命取り組んでいます。一人でも多くの方が参加されますよう希望しています。

宿泊研修(中部会場)
場所 京都簡易保険会館

かんぼーる京都
第一日 平成十一年九月九日(木)
午後一時三十分

「子供の本の魅力をさぐる」
講師 明定 義人 氏

滋賀県高月町立図書館長
「感動が読書習慣をつくる」
「読みきかせ」 子どもと本を
結ぶお手伝い

講師 大石 進 氏
元京都女子大付属小学校教諭

実技講習会
お話(口演童話)とゲームの実際
第二日 九月十日(金)
午前九時〜十二時

施設見学会(京都府立総合資料館・京都コンサートホール)

実務研修会(北部会場)

日時 平成十一年十一月五日(金)
午後一時〜三時三十分

場所 宮津市労働会館
「地域に向いて図書館のワッ」
館外サービスの新しい展開

講師 谷垣 笑子 氏
豊中市立岡町図書館司書

実務研修会(南部会場)
日時 平成十二年二月予定

場所 久御山町立図書館
テーマ 未定

◎ 相互協力委員会

六月十六日に府立図書館で第一回相互協力委員会を開催しました。

本年度は、府立の新館開館準備に伴い、連絡協力車や協力貸出方法の一部変更などがあり、それらの状況を踏まえた、各市町における「相互貸借」の現状や課題についての交流と議論を中心に行いました。

特に、相互貸借の件数が十年度に比しては、前年度に比べても大きく増加している中で、ウオンテッドの在り方やレファレンスの方法等について具体的な課題や要望も提起され、活発な意見交換が行われました。また、現在の『相互貸借貸出票』の様式等についても、各市町村の状況等をさらに詳しく把握しながら改

正に向けて次回委員会で論議を深めることとなりました。

さらに、本年度の相互協力実務担当者会議については、京図連協未加盟施設担当者の研修の機会であることも視野に入れながら、他府県の取り組みの実態等をより实际的に学ぶ場として、さらに次年度以降の府立図書館の方向についての説明や意見交換の場として位置付け、十月頃に開催することとなりました。

● 編集子 ●

久しぶりに会う方々、新しく委員になられた方々と交流を兼ねての編集会議。メンバー、心身もともにリフレッシュといったところ。さて、たくさんの人々で賑わった夏休みもいよいよ終盤です。電子情報化の進歩もさることながら、私たち図書館員にとって、「フロア・ワーク」も大切な仕事であることを実感する今日この頃です。

今年度の会報は、次の予定で発行します。

第五十号 一月十五日
第五十一号 三月十五日